新図書館等複合施設の活用をみんなで考えるワークショップ（全５回）

＜第１回＞　みんなで考えよう「新施設をどう使う？」 実施記録

1　開催日時：2024 年９月 23 日（月・振替休日）　14：00～16：00

2　開催場所：妙高市役所１階　コラボホール

3　参加者：52 名

4　スケジュール

時間	内容
14：00　～　15：10	新図書館等複合施設の紹介とワークショップについての説明
15：10　～　15：20	休憩
15：20　～　16：00	グループディスカッション

5　ワークショップの内容

（1）新図書館等複合施設の紹介とワークショップについての説明

●妙高市（主催者）挨拶（生涯学習課長）

→来年秋のオープンを目指して、整備を進めている「新図書館等複合施設」は、将来にわたって市民から親しまれ、愛される施設はもとより、周辺地域や関係団体の皆様等と共に育て、効果的な活用を進めていくことが求められている。

ワークショップでは、この新施設にたくさんの人々が訪れ、活用いただくため、皆さんの「アイディア」や「やりたいこと」、「できること」など、楽しく意見交換する中で、施設の利用促進と活用や、「周辺地域も元気になる」「わくわくする」、そんなことをみんなで考えていきたい。

●新施設の基本理念、基本方針について説明（生涯学習課　図書館整備室長）

→資料①参照

●新図書館等複合施設の施設計画の基本コンセプト（佐藤総合計画）

→資料②参照

・設計コンセプト「人と情報（本）と居場所をつなぐ」

・建物配置や構成（１階　交流スペース「みんなの広場」、２階　学習・市民活動スペース「創造の場」、３階　図書館「知の拠点」）

●ワークショップで何をするの？（趣旨と進め方）　アクションプラン策定にむけて（未来の図書館研究所）

→資料③参照

・いろいろな複合施設（豊橋市まちなか図書館、安城市「アンフォーレ」、ヘルシンキ中央図書館）の事例を紹介

・ワークショップでは新施設をどう活用するかを話し合いアクションプランにまとめる
・ワークショップ全 5 回の構成とスケジュール
・ワークショップ参加者の LINE グループ登録の呼びかけ

（2）グループディスカッション

●グループディスカッションの進め方等について説明（図書館パートナーズ）
→資料④参照
・ファシリテーター（図書館パートナーズ）がグループディスカッションの進行を担当
・ファシリテーターの所属するボランティア団体「墨田区ひきふね図書館パートナーズ」が実施したイベント企画の具体的事例を紹介（まちライブラリー 植本祭、8 時間耐久読書会など）
・グループディスカッションの進め方について説明（使用する「自己紹介シート」の説明など）

●グループディスカッション
→参加者各自が「自己紹介シート」（「普段のお仕事、関心事」「まちの困りごと、気がかりなこと」「前半の感想・気づき」「新施設でやりたいこと」で構成）を記入し意見交換

主な内容は以下のとおり

【普段のお仕事（参加者の職業）】

図書館関係者、NPO、会社員、ボランティア、自営業、インストラクター、寮母、定年退職者、町内会関係者、無職、中学生、高校生、商工会関係者、新施設図書館窓口業務・子育て広場・カフェ運営委託候補者、市議会議員、市職員など

【まちの困りごと、気がかりなこと】

・人口減少、高齢化
・こども・中・高校生の姿が町中で見られない
・地域のつながりがうすれている
・書店がない雪、衰退する街中
・高齢者の居場所がない
・こどもの居場所がない
・高校生が遊べる施設が少ない
・学習スペースが少ない
・子連れでの飲食スペースが少ない など

【前半の感想・気づき】

・いろんな人が集まった
・新しい施設に期待している人が多い

・市民は案外活動に前向き
・新施設の概要がだいたいわかった
・やれることがありそうな感じ
・色々な世代で交流できたらいい
・先進事例について様々な形や機能を知ることができた
・先進事例は妙高にマッチしない、その町それぞれの特色がある
・説明時間が長い、話し合いの時間を確保してほしい　など

【新施設でやりたいこと】

＜イベントをやろう・やりたい＞

・スポーツイベント（あえて…）
・ゲーム大会も面白いかも
・親子、家族でできるイベント（本に関わるだけではなく）
・（8 時間）耐久読書会
・複合施設の周りも含めた活動（イベント）
・駐車場を使えるとの事で、マルシェをやりたい
・朗読劇などやってみたい
・議案をみんなで読む会
・短歌講習会
・妙高市は地域が広いので、高原や妙高地域からも、集りやすいイベント
・にぎわい作りのイベント
・人と人が交流できるイベントの開催
・子育て親子を対象としたイベント開催しては
・おもちゃ病院の定期開院
・カフェとコラボして人が集まる様なイベントの企画・運営

＜こども向けの活動をやろう・やりたい＞

・絵本の読み聞かせ
・人形劇上演
・こども達などへの絵本の読み聞かせ
・各学校に読み聞かせボランティアグループがあり、その方たちとこの新図書館で幼児やこどもに読み聞かせを行いたい
・読み聞かせ、紙しばいの会
・絵本のリサイクル、譲渡
・土曜日以外にも読み聞かせをしてほしい

・市神社の整備→こどもの遊べる遊具があるといい。

＜高校生＞

・（中・高校生が集まって何かできるような場所ができると良い）←希望

・新井高校生を巻き込んだ図書館の活性化

＜施設を拠点に特定の活動をしたい＞

・四季の歌の活用（妙高市を歌ったうた）

・食材と食をむすぶ

・中・高生で学校へ行けない子が自主的に学べる場作り

・塾にお金をかけられない子のお手伝い

・学習の手伝

・ボードゲームなどの遊び

＜ボランティアをやりたい・やろう・促進して！＞

・こどもも含めたボランティアの組織化

・もっと図書ボラだけではない、妙高市のボランティアを（小・中・高も含めて）増やし、人々の連携をより深めていくこと

・図書館ボランティア

・まちライブラリー

・ボランティア活性化

＜提供されるサービスをじっくり使いたい＞

・職場が図書館の中に入るので本をたくさんかりたい。

・友達と勉強を教え合う

・ゆっくり本が読みたい、勉強したい。

・一人でも長く居られる施設であってほしい

・カフェで勉強

・勉強

・本を読みにいく

＜地域に賑わいを作りたい＞

・中だけでなく外もにぎやかに

・施設を起点ににぎわいを拡大させる

・図書館等複合施設のにぎわいをまわりに広げる

・首都圏から人を呼ぶ

・隣接町内（４町内）の拠点として

＜人との交流＞

・人との交流
・カフェでお茶しながら友達と本の感想とか話をすること
・静かに利用する図書空間だけでなく色々な話題がでる広場であってほしい
・異世代間の交流
・交流の出来る場所づくり
・各サークルの活発な活動
・自分の活動の打ち合わせやディスカッション、発表交流
・友達と勉強や休みの日に遊びたい！

＜カフェへの期待＞

・カフェ：誰でも、一人でも来て、ゆっくりコーヒーとか食事をしてもらう場所を作りたい
・カフェではアレルギー対応メニュー、離乳食
・カフェがほしい
・カフェで勉強（再掲）
・カフェでお茶しながら友達と本の感想とか話をすること（再掲）

＜サービスの充実や工夫＞

・いろいろな年代の方に利用していただける工夫。
・無料宅配サービスの制度化
・Web、SNS の活用
・本の宅配
・市民によりそった運営
・マンガも気楽に読める。書店、喫茶店の機能
・みんなに気楽になにかしてほしい
・利用促進
・本の返却場所を増やして
・高原・妙高地区も集まれる図書館
・絵本もリサイクルブックにふくめて下さい
・返却する所がスーパーなどでもあると良い
・VR：メタバース
・1 日 Zoom 出来る、勉強が出来る部屋がほしい
・国立、県立図書館の本がかりたい
・本を買えるようにしてほしい
・マンガ、雑誌をおいてもらいたい
・近未来的な図書館、ネットカフェ

＜関連施設との連携＞

・図書館と（小・中・高の司書・幼保）、接点をもち、図書館の利用者を増やすこと

・周辺施設との連携

＜運営制度への注文＞

・図書館法 14 条に基づく図書館協議会の設立、条例化

・司書の充実、待遇向上

・ジュニアパスと図書利用カード一体化すれば？

＜その他＞

・どこまで具現化できるか

・市民活動の活性

・こどもや人育てに関わること

・今は思いつかないです。

・交流、子育て支援、高齢者

・図書館とは直接関わらないこと

・ただのいすとテーブルはこまる！

・研究テーマ：家の利活用

・研究テーマ：これからの農業→無農薬

・研究テーマ：首都圏から人を呼ぶことが可能か！？

・研究テーマの深堀

【「自己紹介シート」以外の意見など】

・まずは施設に来てもらうことが大切。借りることを第一の目的にしないほうがいい。

・こどもが YouTube ばかり見て本を読まないし、読んであげても集中力が続かない。前はテレビばかり見ていて…と言っていたが、今は YouTube で、集中時間も YouTube 時間程度しか持たない。

・こども連れだと上の階に行きづらいことがあった。世代で区切ったり階が変わったりすると行きづらい。

・新図書館近くの神社のあたりが暗くて怖い。一帯が明るくなるといい。

・マンガはダメじゃなくて、アニメとかマンガも取り扱ったらいい。

・広場だけあっても遊具とかがないと人が来ない。

・建物西側にもイベントなど多目的に活用できる広場があるとよい。

・外で何かやってそれから中に入ってくるものだから、建物の中だけで何かやっていてもダメである。

・観光で来る方向けのイベントより、まちの人に来てもらえるイベントのほうが貴重ではないか。

・いいお店とか、効率よくまちの情報が得られるものがあるといい。

・市内にいると課題とかやりたいこともわからない。外に出たからこそ見える、わかることはある。
・やっていることが見えて、ちょっとした作業とかでも気軽に手伝えるようになったらいい。
・学校図書館の司書と公立図書館の司書とのつながりがあまりないので、新図書館をきっかけに連携とか交流ができたらいい。　など

第 1 回ワークショップの様子

▲市からの挨拶

▲先進複合施設の事例紹介

▲「自己紹介シート」に記入

▲グループディスカッション

▲会場後方では地域新聞、地元テレビ、有線放送がワークショップを取材